

Fuji Champion Race Series Round 4

2023.9.23 SAT - 24 SUN

N-ONE OWNER'S CUP Round 9



今年は全10戦+FINALで競われる、N-ONEオーナーズカップも9戦目を迎え、残る戦いはあとわずか。そのエントリーは、実に108台！予選上位54台が7週の決勝レースに進み、55位以下は4週のフューチャーズレースに進む。肝心の予選が突然の雨で波乱の展開になる中、なんとポイントリーダーの#36阿久津敏寿がフューチャーズレースに回る予想外の事態も。ポールポジションは今回が初めての#75森本進一が獲得する。

決勝では2番手スタートの#31櫻井颯一郎が素早く飛び出すも、#75森本はTGRコーナーでしっかりインを閉めて、逆転を許さない。その後は#31櫻井と#990吉田佑太、#5吹谷禎一郎が一回となつて、後続を引き離して#75森本を追うも、5周目に3台が激しくやり合ったことが裏目に出て、トップを逃してしまう。一気に1秒半のリードを稼いだ#75森本ではあったが、最後はひとり抜け出してきた#35櫻井にコンマ4秒差にまで迫られていた。「楽ではなかったです。もう1周あったら、たぶん抜かれていたでしょう。思ったよりも滑りやすかったので、けっこう頑張りましたね！後ろのバトルには助けられました。もっとやってくれればと思ったぐらいで(笑)。N-ONEでは初優勝です」と#75森本。2位は#35櫻井、3位は#5吹谷が獲得した。そしてフューチャーズレースでは、スタートで#992進藤美弘選手がトップに立ったが、最終ラップのTGRコーナーで#920畠山淳也選手が逆転。最初にチェッカーを受けている。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト N-ONE

Rank No.	Name
1	75 森本 進一
2	31 櫻井 颯一郎
3	5 吹谷 禎一郎
4	990 吉田 佑太
5	422 興格 嵩弥
6	52 高橋 智紀

ROADSTER PARTY RACE III Japan Tour Series Round 6



ロードスター・パーティレースⅢの“全国転戦”ジャパンツアーシリーズは2年目を迎え、さらに今年からJAFのツーリングカー地方選手権もかけられた。第6戦を迎えた今大会、ここまで4戦に出場して、すべて勝っている#35箕輪卓也の前に立ちはだかったのが、2年ぶりの参戦となった#105南澤拓実。コンマ4秒差で#35箕輪を抑えてポールポジションを奪う。

決勝レースはローリングスタートでの開始となり、誰より鋭いダッシュを決めた#105南澤がいきなり逃げに入る一方で、2番手争いが熾烈。#35箕輪に、#26織田祥平と#63吉田恭将が激しく迫る。今回、4位にさえ入れば、最終戦を待たずしてチャンピオンが決まる#35箕輪ながら、守りに入ろうという気は一切ないようだ。ふたりのチャージをやり過ごすことなく、何度も順位を入れ替えあっていたからだ。ただし、そのバトルはトップを行く#105南澤にとっては好都合。折り返しの4周目にリードが3秒に達してからは、「バックミラーでしっかり見ていて、もうペース上げずに、チェッカー受けることを目標に走っていました」と言うぐらい。

一方、注目の2位争いは最終ラップのTGRコーナーにスリーワイドで飛び込み、コカコーラコーナーまでに#26織田、#63吉田、#35箕輪の順に。表彰台には届かず、「チャンピオンの実感はまだ……」と語るも、#35箕輪が2連覇を達成。NDクラブマンは#2鷲尾拓実が優勝、総合でも8位で「いや～嬉しい、初優勝なので」と、とびっきりの笑顔で語っていた。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト ND Series

Rank No.	Name
1	105 南澤 拓実
2	26 織田 祥平
3	63 吉田 恭将
4	35 箕輪 卓也
5	171 野村 充
6	88 本多 永一



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト ND Clubman Series

Rank No.	Name
1	2 鷲尾 拓実
2	52 古田 孝一
3	126 川島 修
4	153 平田 剛
5	46 北田 辰男
6	214 山元 貴之

86&BRZ
FUJI 86BRZ Challenge Cup
Round 3



N1車両で争われる86&BRZクラスには、#52竹内浩典のGR86を含め4台が、チューニングカーで争われる富士86BRZチャレンジカップにはJP-2S、JP-3S、JP-4Sの3クラスに合わせて12台がエントリー。予選の大半をJP-2Sの#700梅原雄一がリードするも、終了間際になって#52竹内が逆転。JP-3Sでは#72堀シュンジが、JP-4Sでは#17吉成公一がトップだ。

決勝では#700梅原が好スタートを切り、1周目を終えた段階で1秒1の差をつけるも、次の周には#52竹内が真後ろに。テール・トゥ・ノーズでの戦いは、7周目まで続けられた。だが、パナソニックコーナーでのミスを見逃さず、#52竹内はTGRコーナーで、ついにトップに浮上。すると、力のすべてを解き放って、ラスト2周はファステストラップを連発し、4秒差の快勝となった。「一緒に走っていたら、モニターも追ってくるだろうと。単独ではそうはいかないから、車のいいプロモーションになりました」と#52竹内。対して#700梅原は「遊んでいましたよ、後ろで(苦笑)。でもクラスでは圧勝だったので、

最終戦も勝ちたいですね」と語っていた。

バトルが最も激しかったのが、86&BRZクラスだった。まずは#312松本晴彦がリードするが、#53森田幸二郎が少しも離れず。4周目のストレートで逆転すると、今度は#53森田が追われる立場となる。だが、#312松本の再三のプレッシャーにも屈せず。勝った#53森田は「涙出てきました。松本さんに勝ったのは初めて。憧れの先輩なので、もう引退します(笑)」と本当に嬉しそう。敗れた#312松本ながら、5連覇達成となって「今年で学校の活動が中止になっちゃうんです。モータースポーツ科は今年度が最後なので結果を残せるように頑張ります」と次戦の抱負を語った。

JP-3Sでは#72堀がそのまま逃げ切り、2勝目をマーク。「前回、エンジン壊しているの、なんとかなって勝てて良かったです」。そしてJP-4Sでは「最後はタイヤがタレてきちゃって、必死でした。初優勝なので、本当に嬉しいです」と語った#17吉成が辛くも逃げ切りに成功していた。



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	53 森田 幸二郎
2	312 松本 晴彦
3	222 松下 浩平



RESULT リザルト
Fuji 86BRZ Challenge Cup 2S

Rank No.	Name
1	700 梅原 雄一
2	35 五十嵐 剛木
3	241 鈴木 貴大



RESULT リザルト
Fuji 86BRZ Challenge Cup 3S

Rank No.	Name
1	72 堀シュンジ
2	15 五貫 貴男
3	726 勝又 臣楠
4	43 常盤 岳史
5	28 鈴木 康史
6	616 伊東康宏



RESULT リザルト
Fuji 86BRZ Challenge Cup 4S

Rank No.	Name
1	17 吉成 公一
2	184 SAITO KYOU

FCR-VITA
Round 3



開始早々に雨が降り、予選は波乱含みの展開に。早めにアタックをかけた、#32児島弘訓がポールポジションを獲得。2番手は初の最前列を得た#47中澤拓也で、#38徳升広平が3番手に。遅らせたコースインが裏目に出た#117三浦愛と#114翁長実希ながら、それでも5番手、6番手につけていた。

決勝もまた雨の中で競われた。スタートで#32児島が出遅れ、トップに立った#47中澤だったが、コカコーラコーナーで痛恨のオーバーラン。代わってトップに#38徳升がトップに立つも、背後には#114翁長が。早々に後続を引き離し、トップを一騎討ちで争い合う。何度も順位を入れ替えた#38徳升と#114翁長だったが、主役はこのふたりではなかった。予選は9番手だったが、1周目だけで6番手に上がっていた#39藤原大暉が、そのまま順位を上げ続け、6周目にはふたりの背後に。8周目のコカコーラコーナーで、まず#114翁長をかわし、9周目の100Rでバックマーカーの処理に手間取る、#38徳升の隙を突いて、トップに#39藤原が躍り出た。

「神がかったでしょう！ 予選は本当に場所取りが悪くて。決勝はスタートしてTGRコーナーさえ無事に抜けられれば、あとは順繰り行けると考えていました。実際とどんどん行きました！」と#39藤原。一方、#114翁長にも抜かれ、3位留まりだった#38徳升ながら、早くも3連覇を達成！「決まりですか？ 全然実感ないですけど。今日は彼(藤原)の速さを讃えたいと思います」というのは、正直な気持ちだろう。なお、#32児島は4位、#47中澤は7位でレースを終えている。

RESULT リザルト FCR-VITA

Rank No.	Name
1	39 藤原 大暉
2	114 翁長 実希
3	58 徳升 広平
4	32 児島 弘訓
5	117 三浦 愛
6	7 有村 将真

KYOJO CUP
Round 3



今季ここまで2連勝で、ランキングのトップを行く#17三浦愛ながら、ポールポジションは実は今季初。ランキング2位の#114翁長実希は4番手で、ふたりの間に#86永井歩夢と#87山本龍が割って入った。

決勝では#17三浦が好スタートを切って、トップで1コーナーに飛び込むも、それ以上のダッシュを見せたのが#114翁長だった。#86永井と#87山本の間を中央突破、2番手に浮上するとともに、さっそく#17三浦とトップ争いを繰り広げる。一方、「私たちのバトルを邪魔しないで」オーラを放たれ、間隔は空いてしまうも、3番手争いも超熾烈。予選5番手から、やはり好スタートを切っていた#44平川真子、#86永井、#87山本、#337齋藤愛未の4人は何度も順位を入れ替えていた。

トップ争いは最後まで続き、何度も#114翁長が横には並ぶも、前に出ることを#17三浦は許さず。逃げ切って3連勝となったかと思われたが、激しいバトルの際に接触があり、#17三浦に対して5秒加算のペナルティが。これで順位は入れ替わり、#114翁長の今季初優勝に。しかし、「素直には喜ばせんね。後味もちょっと悪いです。でも、クリーンなレースを、これからKYOJO選手ひとりひとりがしていくために、私自身も含めて勉強の一戦だったかと。最終戦は思いっきり、楽しいレースをしたいと思います」と#114翁長。

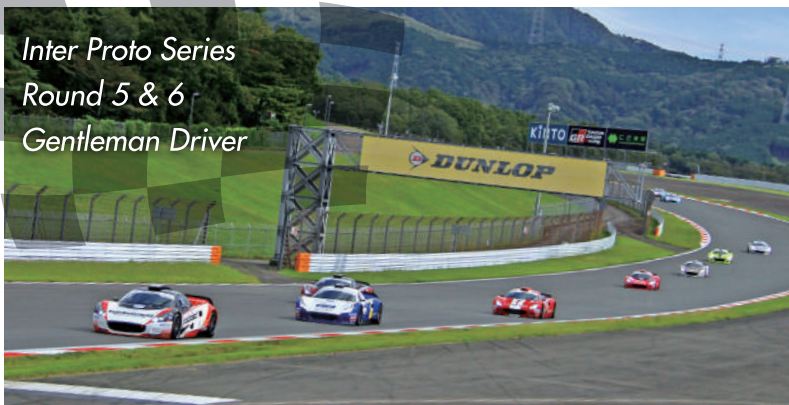
一方、3位は#86永井が獲得。5周目からバトルの先頭に立ち、最後は#44平川だけが続く格好となったが、0.146秒差で逃げ切り成功。5位は#337齋藤、6位は#87山本となった。

RESULT リザルト KYOJO CUP

Rank No.	Name
1	114 翁長 実希
2	17 三浦 愛
3	86 永井 歩夢
4	44 平川 真子
5	337 齋藤 愛未
6	87 山本 龍



Inter Proto Series
Round 5 & 6
Gentleman Driver



本来、予選はジェントルマンクラスを先に行うはずだったが、霧に見舞われたため順番が入れ替えられたが、かえって雨の中での走行を強いられてしまう。そんな過酷な条件下ではあったが、ベストタイム、セカンドベストタイムともにトップでWポールとなったのは#37大蔵峰樹。第5戦は#55川田浩史が、そして第6戦は#32永井秀貴が2番手で続いた。

すでに雨はやんでいたが、路面はウエットのままとあって、第5戦決勝レースはセーフティカースタートからの開始となった。2周の先導の後、グリーンシグナルが灯された。#37大蔵が序盤をリードするも、#55河田がぴたりと食らいついて離れない。必死にガードを固める#37大蔵に対し、「後ろから相手の速いところと、自分の速いところを見つけていたので、そこで仕掛けられるように準備していました」と語る#55川田にチャンスが訪れたのは6周目。1コーナーで並んで、コココーラコーナーまでに前に出る。いったんは4秒の差をつけたが、終盤に#37大蔵が再接近。が、SCスタートの影響でタイムアップ。「本当に疲れました。時間で終わってラッキーでした」と#55川田。一方、ジェントルマン(G)クラスでは#7勝又隆二が「後ろにいるのがエキスパートの方だったので、気持ち的には楽しなかったんですが」と語りながらも開幕5連勝。そしてSupra GT4クラスでは#45橋本達宏が圧勝。「後ろの様子を見ながら、タイヤを壊さないようにだけ、気をつけて走っていた」のを勝因としていた。

Round 5



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	55 川田 浩史
2	37 大蔵 峰樹
3	44 山口 達雄
4	8 植田 正幸
5	32 永井 秀貴

Round 5



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	7 勝又 隆二
2	71 大山 正芳
3	16 渡邊 久和
4	96 末長 一範
5	88 八木 常治
6	27 山崎 哲之

Round 5



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	45 橋本 達宏
2	72 近藤 保
3	39 卜部 治久
4	38 豊島 豊
5	31 兼重 和生

日曜日に行われた第6戦決勝レースは、一転して秋晴れの下でバトルが繰り広げられた。TGRコーナーにトップで飛び込んでいったのは#32永井。アウトから#37大蔵をかわしていく。しかし、容易く逃してはくれない、#37大蔵ばかりか#55川田、そして#44山口達雄も連なって#32永井を追いかけていく。だが、#37大蔵がマシントラブルで3周目にマシンを止め、この間に差を一気に広げた#32永井ではあったが、中盤からはアンダーステアに苦しみ始め、そこに近づいてきたのが#44山口だった。最後のストレート

で並ばれ、「一回抜かれてしまったんですけど、うまく抜き返せたので良かったです」と語る、#32永井が0.014秒の超僅差で3勝目を挙げた。

Gクラスでは6連勝を目指す#7勝又が、一時は総合でも4番手を走るも、マシントラブルでペースを上げられなくなり、代わってトップに立った#71大山正芳が初優勝。「セットを変えて、ショック換えたら走りやすくなりました」と#71大山。Supra GT4クラスでは「最後は防戦一方でした」と語りながらも、#39卜部治久が#45橋本を抑えて3勝目を挙げた。

Round 6



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	32 永井 秀貴
2	44 山口 達雄
3	55 川田 浩史
4	3 FLYING RAT
5	8 植田 正幸



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	71 大山 正芳
2	16 渡邊 久和
3	96 末長 一範
4	88 八木 常治
5	7 勝又 隆二
6	27 山崎 哲之



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	39 卜部 治久
2	45 橋本 達宏
3	72 近藤 保
4	38 豊島 豊
5	31 兼重 和生

Inter Proto Series
Round 5 & 6
Professional Driver



霧がサーキット全体を薄く覆って、セミウエットの路面で繰り広げられた予選で、トップタイムを記したのは#3阪口晴南。これにコンマ1秒と遅れぬ僅差で#44山下健太が続き、3番手は#37福住仁嶺。そしてSupra GT4クラスではベテラン勢を従え、#39ト部和久がトップとなった。

スローペースでのローリングスタートから、第5戦決勝レースが開始される。早々に#3阪口と#44山下、#37福住による三つ巴のトップ争いが後続を引き離して繰り広げられるが、それぞれが隙を見せず、最後まで順位変動はなし。その後方では、中盤から#32小高一斗が単独走行になった一方で、6番手からの発進となった#7野尻智紀が果敢な走りを見せ、ひとつ順位を上げていた。Supra GT4クラスでは1周目のうちに#39ト部を、#38坪井翔が捕らえ、そのまま差を広げていた。

第5戦とは対照的に、第6戦決勝レースでは大きな動きがあった。やはり3台でのトップ争いは変わらずとも、まず#16ロニー・クインタレリが

#7野尻をスタート直後にかわって5番手に浮上。しかし、3周目のダンロップコーナーで再逆転を狙った#7野尻が姿勢を乱して、#16クインタレリを巻き込み、ともにリタイヤを喫してしまう。これでセーフティカー(SC)が2周にわたって導入される。リスタート後の最終コーナーに、すべてをかけたのが#44山下だ。#3阪口のインを刺し、待望のトップに浮上。そのまま逃げ切って3勝目を挙げた。「最初のレースも勝ちたかったんですが、あまり余裕なくて。着いていくのが精いっぱいでした。レース2もSC明けたところで勝負しないと、もう行けないなと思っていたんで。ぎりぎりの間隔でしたが、なんとか前に出られました」と#44山下。

Supra GT4クラスでは、#39坪井が最後までトップを譲らず、これで4連勝となった。「レース1でトップに立ったのはコカコーラコーナー。1コーナーで並んで、アウトからという感じでした。(ト部に対して)先輩の意地を見せられたので良かったと思っています」と、上機嫌で語っていた。



RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	3 阪口 晴南
2	44 山下 健太
3	37 福住 仁嶺
4	32 小高 一斗
5	7 野尻 智紀
6	16 Ronnie QUINTARELLI

RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	38 坪井 翔
2	39 ト部 和久
3	31 堤 優威
4	45 片岡 龍也
5	72 阪口 良平



RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	44 山下 健太
2	3 阪口 晴南
3	37 福住 仁嶺
4	55 宮田 莉朋
5	32 小高 一斗
6	27 Giuliano ALESI



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	38 坪井 翔
2	39 ト部 和久
3	45 片岡 龍也
4	31 堤 優威
5	72 阪口 良平